

矢田のまちづくりに関する住民の声

(1)実施要領

平成 17 年 11 月～平成 18 年 1 月

まちづくり勉強会、支部大会の会場で配布・任意提出

回答者数 38 人

(2)集計結果

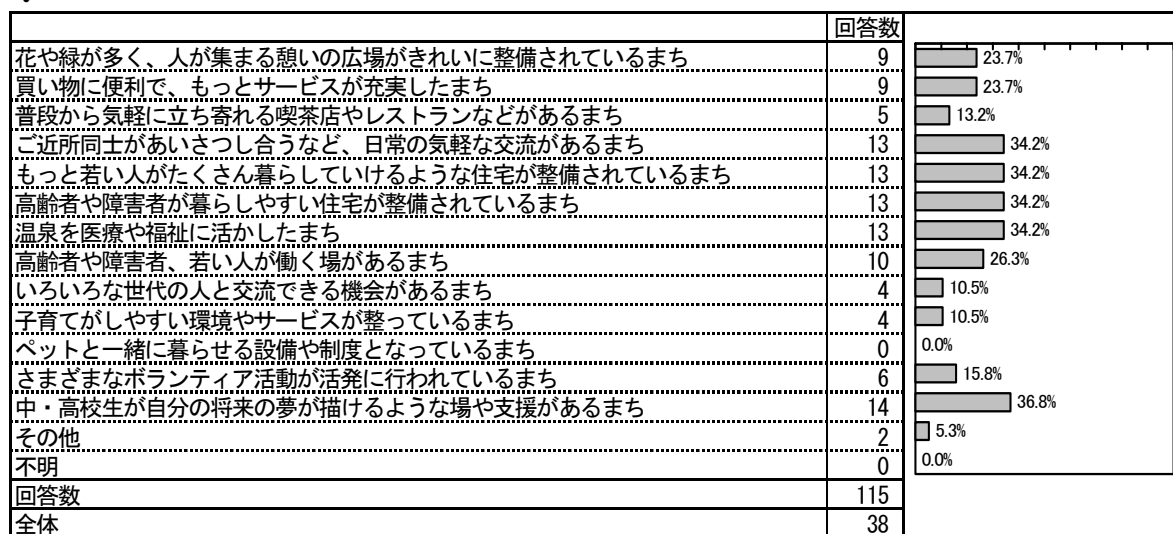
Q1 復活させたい、残したいと思う矢田

	回答数	
きれいで、安心して遊べる大和川	22	57.9%
大人が働き、子どもは遊び場になっていた畑	1	2.6%
ご近所みんなが集まって話をしたり、子どもが一緒になって遊んでいた路地	11	28.9%
子育てや介護などで大変な時、助け合ってくれたあたたかい地域のつながり	20	52.6%
いろいろな行事が活発に行われている地域	7	18.4%
これまでに総合計画によって整備されてきたさまざまな施設	4	10.5%
緑の多い環境	9	23.7%
集合住宅や中・低層の建物が主体で、ゆとりと落ち着きのある街なみ	9	23.7%
みんなで力をあわせて人を育ててきた「教育」と「共生」の文化	15	39.5%
差別と闘ってきた部落解放運動の歴史と文化	14	36.8%
その他	4	10.5%
不明	0	0.0%
回答数	116	
全体	38	

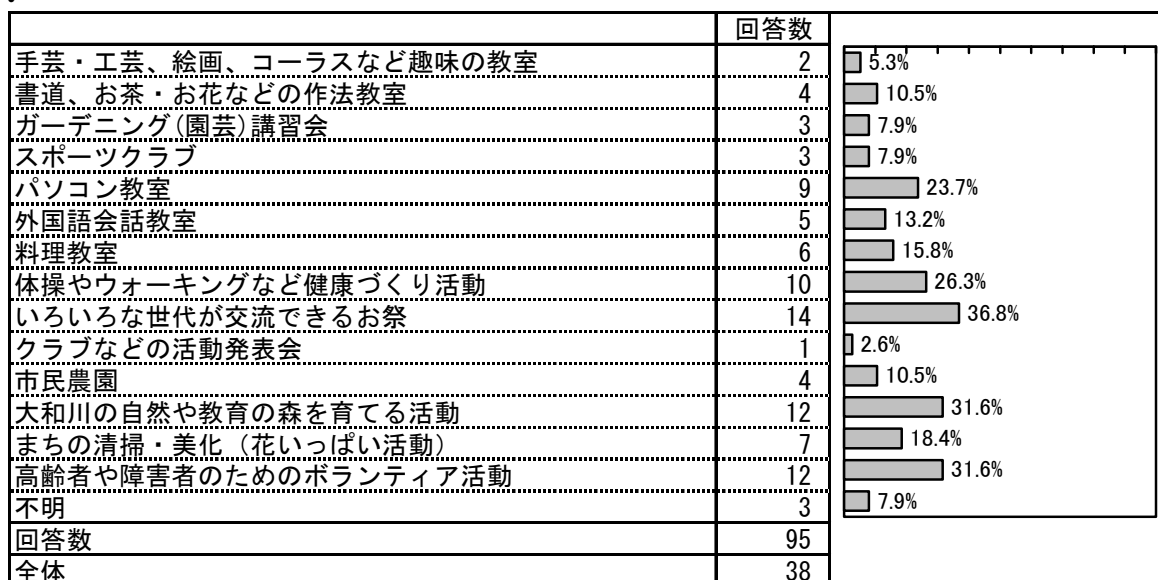
Q2 矢田のまちで気になる点

	回答数	
老朽化した住宅が増えており、今後どのように住宅が改善されていくのか	11	28.9%
若い人や子どもが少なくなり、まちに活気がなくなってきたこと	16	42.1%
夜になると明かりが少なく暗いため歩くのが怖い道があること	12	31.6%
公園などがあまり使われず、空き地も荒れたまま放置されていること	14	36.8%
公園や緑地に犬・猫のふんが落ちていたりなどペットを飼う人のマナーが悪いこと	13	34.2%
公園や道路などに大型のごみや自動車がよく捨てられること	15	39.5%
ご近所の人と話をする機会が少なくなり、付き合いも減ってきたこと	7	18.4%
地域のみんなと一緒に活動することが減り、家から出ない高齢者が増えていること	9	23.7%
高齢者と若い人や子どもが接する機会がなくなり、お互いがわからなくなっている	10	26.3%
何かしたいと思っている人はいるが、地域と関わる機会がもてていないこと	6	15.8%
その他	2	5.3%
不明	0	0.0%
回答数	115	
全体	38	

Q3 矢田がどのようなまちになったらよいと思うか



Q4 どのような行事や取り組みに積極的に参加したいか



Q5 取り組みに対する考え

	全体	そう思う	思わない	どちらともいえない	不明
ご近所同士がお互いに何気ない見守りができるよう、町内会や住棟などで回覧板をまわすようにしよう	38 100.0	25 65.8	2 5.3	10 26.3	1 2.6
地震や火事などの災害が起きたとき、即座にご近所同士が助け合えるよう、小さな単位での防災組織づくりを行おう	38 100.0	34 89.5	1 2.6	1 2.6	2 5.3
地域単位で年に1回程度の行事を行い、ご近所同士の交流をはかろう	38 100.0	22 57.9	4 10.5	7 18.4	5 13.2
季節ごとにみんなで地域の掃除や花植えをするなど、一緒に汗をかきながらいろいろな世代の交流をはかろう	38 100.0	19 50.0	3 7.9	11 28.9	5 13.2
趣味やスポーツなど、興味のある人が集まって行うサークル活動に取組もう	38 100.0	14 36.8	4 10.5	14 36.8	6 15.8
地域の有志が集まって地域のためにする活動を「地域クラブ」として支援していく仕組みをつくろう	38 100.0	15 39.5	4 10.5	12 31.6	7 18.4

☆グループインタビュー

結婚しても“まち”に住む条件＝住みたくなる“まち”

★まちなみ

- まちのゆったり度：見た目、建物の高さ、並び方など
- 渋いファサード：例えば、レンガを使った外観

★道

- 車の通らない道
- 散歩できる道
- サイクリングロード

★施設

- コンビニ、スーパー
- 遊べる所：例えば、パチンコ、雀荘

★住宅

- 間取りの選択肢

★コミュニティ

- 子どもの時から、人とのコミュニケーションが自然ととれる環境＝長屋的
- 盆踊りの復興（周辺地域でも、小規模化、廃止が進んでいる）

今、住む人が求めているもの・こと

★医療センター

- 耳鼻科と眼科が欲しい。以前にはあり便利だったので、あちこちに行きたくないという意見がある。

★魅力

- 人が集まる・行きたいと思う魅力をつくる必要がある。
- “すること”がある必要性が大きい
- 年をとったら、また矢田に戻りたいと思えることが大切だ。

★たまり場

- 常連さんだけでなく、誰もがなじめる雰囲気が必要である。
- ちょっと寄りやすい場所が大切だ。

地域ですべきこと・できること

★たまり場づくり

- どこか1カ所でにぎやかな場をつくる
- そこで、つながりの復活、よきものの伝承

★外部空間

- ドッグラン(公園を守る)
- 街灯に工夫を
- ごみを減らす
- 空き地でガーデニング・畑

★住宅

- 住宅バリアフリー設計の完成度を上げる
- 住宅改修を前提とした住宅づくり

(1) 若氣あいあいの会

①小学生時代に地区(または育った地域)の行事で印象に残っているもの

地区内	人権文化センター前の子ども会グラウンドで実施していた盆踊り。道路が歩行者天国になり、屋台もたくさんでていた。
	地藏盆で各家にお菓子をもらいに行ったこと。 大和川でやっていたとんど(今はもうやっていない)。火が大きく燃え上がって少し怖かった印象がある。
	地藏盆、盆踊り。 子ども会に毎週土曜日、昼食を食べに行った。その後のプログラムには参加しなくなかったので脱走していたが、大人の人に追いかけられ、逃げることも楽しかった。
地区外	子ども会で連れて行ってもらった年に2回の日帰りバス旅行。何もない田舎だったので、行った場所は夏ならプールや海水浴、冬はサイクルスポーツセンターだったが、うれしい思い出だった。
	古いまちに新しく引っ越してきたよそ者だったので、地域との関わりは何もなかった。
	子ども会に集まった子ども達が自分たちでみこしを作り、それをもって神戸まつりのパレードに参加したこと。
	たなばたまつり。7歳の子がいる家に行くとお菓子がもらえたので、子ども同士集まって、家を回った。 秋祭りには、やぐらを曳いた。炊き出しがあって、みんなで自由に食べることができた。夜は大人の祭りになるので、夕方にはお菓子をもらって帰った。

- 地藏盆は今でも実施しており、お菓子をあげる人ももうらう子どももうれしそうだった。提灯が飾られるが、自分たちが子どもの頃に奉納した提灯を今でも使っており、それを見つけた時、なんとも感慨深いものがあった。

②小学生時代に地区(または育った地域)の中でもっともよく遊んだ場所

地区内	休日の小学校の校庭(当時は忍び込んでいた)
	矢田住道商店街(から揚げ屋に子どもが何人も集まってきて、店番などもやった)
	針中野のニチイの屋上
	大和川の土手(大和川は水がきたないので、泳ぎに行こうとは思わなかった。釣りはした。)
地区外	中8棟のフロア(探ドロ遊び)、花火
	近くの公園(おにごっこ)、大和線の脇の水路(ザリガニとり)
	建設中の建物の屋上
	ゲームセンター
	小学校グラウンド、畑
地区外	神社の池(のちに公園になってしまった)、自由に使える空き地
	面白いと思っていた所はなく、仕方がないから団地内の公園でよく遊んだ
	山の中、畑、廃材を置いている場所での基地遊び

- 基地遊びはよくやった。あちこちに基地をつくった。
- 近年、大和川の川遊びは O157 発生以降やっていない。学校では観察会などを開催している。

③中・高校生時代の地区(または育った地域)と自分との関係

地区内	中学生になっても子ども会に入っていた 高校からは解放塾の勉強会に参加していた。野外活動やパソコン・絵画などの教室もあり、楽しかった。
	中学生の頃はサッカー部だったので、クラブで忙しかった 高校からは解放塾に行って、趣味的な活動をいろいろとやった
	中学1年生では水泳部だったが、2年生からは化学部＝帰宅部となった 高校からは解放塾に行っていた。
地区外	地域とのかかわりはなくなった
	完全に切れてしまって、まちは素通りする場所となった
	部活中心の生活

④中・高校生時代に友達とよく集まった場所

地区内	矢田部公園に行けば、いつも誰かがいた クラブ後にみんなでお菓子屋さんに寄って帰った
	公園でサッカーをしていた 自宅や友達の家に行き来した
	友達の家（離れがあって、そこに集まっては大騒ぎした）
地区外	地元の学校には進学しなかったの、地元で遊ぶことがなくなった
	三宮に遊びに行っていた

- 昔はたくさんの人が風揚げをしていたが、最近あまり見かけることがなくなった。
- 地区内で遊んでいる子どもを見かけなくなった。家でファミコンをしているのでは？

⑤若者にとってどのような“まち”であってほしいか(“まち”に期待すること)

居場所	● はなれ＝さわげる場所 ← 公園でさわいでいると近所の人からよく怒られた ● まちで遊ぶ（自分の時間を過ごす）ことができれば → 趣味・目的は個人差があると思いますが ● くつろげる場所（図書館、等）
人	● 人・まちを記憶・意識させられる ← 記憶にあるのは隣近所の人ぐらい。例外的に 25 歳位の人に遊んでもらった記憶がある
お 店	● コンビニ ● ファーストフード店
利便性	● 交通の便のよさ

⑥結婚しても“まち”に住む条件を考えてみよう＝住みたくなる“まち”

まちなみ	● まちのゆったり度：見た目、建物の高さ、並び方など ● 渋いファサード：例えば、レンガを使った外観
道	● 車の通らない道 ● 散歩できる道 ● サイクリングロード
施 設	● コンビニ、スーパー ● 遊べる所：例えば、パチンコ、雀荘
住 宅	● 間取りの選択肢
コミュニティ	● 子どもの時から、人とのコミュニケーションが自然ととれる環境＝長屋的 ● 盆踊りの復興（周辺地域でも、小規模化、廃止が進んでいる）

＜今のまち＞

まちなみ

- 窮屈な感じ（人口密度は高くないか？）

道

- 違法駐車が多い

教育の森

- 教育の森は遊べない公園
 - 自殺者が多い、物騒な雰囲気
- ⇒ バーベキューができればいいのに
- ⇒ もっとみんなが使いたくなるような公園に

交通利便性

- 鷹合より不便

コミュニティ

- お寺はあるが入ったことがない、遊び場でもない
- 他の小学校では地域の人に来てもらって盆踊りを教えてもらっている
- ふれあい温泉になってから“外の温泉”になった感じがする＝人が多くなった
- 子どもはふれあい温泉以外の銭湯を利用しているらしい

⑦若者が“まち”に関わりたくなるきっかけ

- まちに関わることをすれば地域通貨がもらえる＝家賃の支払いもできる